

4月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

65,528円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代)	8,400円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	9,050円
通信費(携帯電話代、折込代)	48,078円
支出計 09/4/1~09/5/7	65,528円
寄付 アキヤマさん	7,000円

市政を考える 月刊武松

発行日
09/5/9

第100号

16000部発行

たけまつ ただし
頒布責任者：武松 忠 (市議会議員)
武松政策研究会

再開発・地下街・ホールどうなる!?

事業の方向性が示されました!?

検討委員会の検討結果が市長に報告され、その後、約1ヶ月という短期間で行政側が政策として方向性を示しました。既に新聞等で報道されていますが、概略説明します。(説明資料を抜粋加筆)

■お城通り地区再開発事業の方針について

- ・市が中心となって民間地権者と協力して再開発事業を行う。
- ・民間地権者に対しては、各地権者の諸事情を踏まえ必要に応じて用地の取得など、市として柔軟な対応を行っていく。
- ・施設は、公共施設(検討委員会の提言では、公共的窓口機能、子育て支援機能、図書館を含む市民学習機能、会議室等が例示)を中心とした施設構成とし、現状台数程度の駐車場の確保、周辺商業に配慮した商業施設の設置、広場の整備及び緑道の整備等を行う。
- ・2009年度中に基本的な構想(施設構成、配置、事業費試算、事業手法等)を策定する。
- ・整備は経済情勢や財政事情を考慮し段階的に行う。駐車場や緑道等は2010年度内に整備着手し、商業・業務施設等は経済状況を見極め、最適なものを選択する。

■地下街の再生について

商業機能

安心・安全な農産物や水産物、優れたものづくりの技術に裏打ちされた地場産業など、小田原ならではの地域資源を生かし、小田原のなりわい文化を前面に押し出すことで、来訪者にとって、感動や小田原の魅力発見の場となる商業を展開する。

情報発信機能

小田原のなりわい文化のほか、小田原の歴史、文化などの情報発信源としての機能を付加する。また、「小田原のなりわい文化」を掲げる商業と相まって、「物(商品)」、「サービス」、「情報」など、地下街施設全体で小田原の魅力を発信し、市内各地域への回遊を促す拠点とする。

今後の取り組み

2011年度の施設再開を目途として、次の取り組みを進めていく。

- (1) 土地所有者であるJR東日本との協議
- (2) 地下街における商業・情報発信機能等の検討
- (3) 運営主体の選定 ←非常に困難。
- (4) 施設改修方針の検討 ←改修に多額の費用か?

■(仮称)城下町ホール改め市民ホール整備について

- ・市民ホール整備については、三の丸地区に計画するものとし、建設用地の拡張と並行して再設計し、2014年秋を目標に開館を目指す。
- ・市民会館の在り方については、耐震性を確保した上で、新しい市民ホールが完成するまでの期間は使用を継続する。

今後の取り組み

口市民ホールの整備

市民ホールの整備は、「周辺景観との調和」、「専門性」、「市民参加」、「にぎわい」等をコンセプトとし、外部との関係や機能・運営等に十分な配慮をし、計画を進めるものとする。

- ・2011年度中を目標に現市民ホール用地南側民有地の一部を取得し、建設用地を拡張する。(約3000㎡)

裏面に続く→



図1 市民ホール拡張予定地(点線内)

- ・市民ホール建設に向けて専門的観点から設計等の準備作業を行うための市民ホール建設準備会を設置し、2009年度中を目標に施設整備の基本的な方針を決定する。

市民会館の在り方

市民会館の本館棟は、耐震性を改善するための先行の耐震措置（スリットの追加）が終了している。また、大ホール棟については「三方を耐震壁に囲まれた、耐震性に優れた壁式構造である」という専門家の見解だが、それぞれ継続的使用には耐震補強が必要なため、耐震措置を行うものとする。

■三の丸地区における周遊拠点の整備について整備の方針

市民ホール建設後、現市民会館用地及びその周辺用地を活用し、周辺地区への回遊を促すガイダンス施設、大手門等の歴史的な環境を生かした広場、駐車場などの整備を進める。

今後の取り組み等

□市内プロジェクトによる検討（2009年度）

関係課職員により構成される市内プロジェクトを組織し、小田原城跡等の歴史的な資産と調和した周遊拠点の具体的な整備内容を検討するほか、後述の歴史的風致維持向上計画策定に係る課題整理、施策・事業案等を検討する。

□歴史的風致維持向上計画への位置付け

（2009年度～2010年度）

文化財行政とまちづくり行政の連携のもと、総合的、一体的に小田原の歴史や文化を生かしたまちづくりを推進するため、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称「歴史まちづくり法」）」による歴史的風致維持向上計画を策定し、当該計画に三の丸地区における周遊拠点の整備を位置付ける。この策定作業については、新総合計画の策定作業と並行して行い、取り組む施策・事業等の調整を行なう。

□施設の整備（2011年度以降）

歴史的風致維持向上計画に基づき、順次整備を進める。（現市民会館の解体費用等も補助対象予定）

短期間に政策として方向性をまとめたことについては一定の評価をします。ただし、期間的にも数年遅くなり、経費的にも以前の計画以上のものにならないと判断しています。この計画の余分な経費を試算すると以下ようになります。

（仮称）城下町ホール設計料	1億6000万円
地下街管理経費3年分	1億8000万円
地下街設備改修費	数億円
市民会館耐震診断&補強費	2億1000万円(予測)
市民ホール用地拡張経費	6億0000万円(予測)
計	約15億円(予測)

月刊武松100号！

初当選した翌月の99年5月24日の発行から、丸10年で100号を発行することができました。これもご支援を頂いた皆様、議員の調査研究費及び政務調査費制度（2001年度～）のおかげです。

発行部数は、延べ94万5000部、積み上げると約85m、重量にして約4tになります。経費的には、細かくは計算していませんが、印刷機や紙折り機の購入も含め400万円程度はかかっています。

月刊武松を発行し、駅頭配布をし、ポスティングをして様々な事がありました。しかし、何よりも良かったことは、そうした活動から様々な出会いが

あったことです。これは何事にも替えられません。

また編集の際、情報をわかりやすく伝えようと工夫することや、所管への聞き取りや調査によって、自分自身のそれぞれの案件に対する理解を深められたことです。

さて、月刊武松は、駅頭配布やポスティングを行うため、読む方が必ずしも私の支持者ではありません。そのため、当初は、私が行った一般質問等を掲載していたものの、途中から市で問題や課題になっていることを、多方面から分析し、かつ自分の意見を少しだけ入れるように編集方針を変更してきました。ホームページのバックナンバーを読んで頂ければ、その変遷がわかると思います。

月刊武松はこれからも発行し続けます！

武松政策研究会からのお知らせ

5月から、朝の駅頭配布再開します。鴨宮駅南口と国府津駅での駅頭配布は、新聞折込を始めたので当面行いません。また都合により配布曜日が不定期になります。

5月の勉強会は

日時：5/23(土)18時～20時

場所：市民学習フロア 学習室B 駅前ビルドラッグストア奥の1Fで4階

テーマ：「再開発・地下街・ホールについて」

参加費：100円 終了後、実費で懇親会を行います。

i-mode HP →



HPは、**YAHOO!**で「たけまつただし」 月刊武松バックナンバー全て掲載しています。

寄付は、ジャパンネットバンク 本店 普通口座 7941377 タケマツタダシ

さがみ信用金庫 大井町支店出張所 普通口座 0051228 武松政策研究会 武松忠 まで

月刊武松は**本人が配布**しているため、行き届かないところがありますが、読み終わりましたら知合いの方にお渡しいただくと幸いです。また、**eメールでも送付していますので連絡下さい。**